

< 速 報 >

大和倉庫闘争終結のご報告

各地方組織に於ける日頃のご奮闘に敬意を表します。

自治労全国一般評議会並びに地方組織各位にはこれまでに、2005年8月から始まった全国一般福岡大和倉庫闘争に物心両面で全面的なご支援を頂き厚く御礼申し上げます。

またこの3年間に多くの抗議行動や、署名行動などへの参加を始め、全国からの物品販売へのご協力、メグミルクへの不買運動、今年になってもメグミルクの関係資本雪印に対する一株株主運動への支援に心より感謝申し上げます。

さて、福岡大和倉庫闘争は、2007年に県労委で福岡大和倉庫の不当労働行為を始め、荷主メグミルクについても使用者性に一部勝利命令を勝ち取りましたが、内容の実効性を求め会社とメグミルクを相手に中労委の場で闘いを展開してきました。その中労委は昨年12月に結審していましたが、命令書が先日7月18日に届きました。

予想された結果とはいえ内容的には県労委命令からも後退しており正直落胆をいたしました。しかし一方では、自治労北海道の動員をうけて昨年に続き6月26日の札幌に於ける雪印株主総会に参加しブランドを引き継ぐメグミルクの株主として責任在る行動を訴えてきましたし、中労委の調査過程で明らかになった福岡大和倉庫の役員が、福岡大和倉庫の実質親会社（現在は資本関係なし）の大和総合グループ傘下の企業に再就労している事実に対して、7月から大阪地本や近畿ブロックの応援のもと大和総合グループの経営陣に抗議教宣活動を展開してきました。その結果、奇しくも命令の届いた日の前日からなんと福岡大和倉庫の小川社長が大和グループの窓口となって全面的な解決の協議をしたいと接触があったのです。

その後、予定していた抗議集会も行動も中止しながら水面下で解決条件の協議を重ね、結果的にこのお盆前の8月11日に調印と12日に内容履行の最終確認をすることが出来ました。福岡大和倉庫の会社自体は既に本年4月に管財業務も終了しており、私たちが望んでいた「雇用の確保」は叶いませんでしたが、社長の謝罪を協定条項に加えた上で、一定水準での金銭解決ということになりました。当該組織としては、闘争展開の全般状況を踏まえ、また7月末日で解雇から丸3年を経過した中で、本来の使用者である福岡大和倉庫サイドに於いて一定の解決を見いだすことが出来た以上、闘いの主戦場にしてきたメグミルクに対する悔しい思いもありますがこの闘い全般にも終結判断を行うことが妥当であると考えました。

全員解雇以来、丸3年間の闘いにこうした解決の結果が得られたのも、自治労をはじめ全国の全国一般のネットワークを活かした全国展開と具体的なご支援の賜と重ねて感謝を申し上げます、第一報とさせていただきます。

全国一般労働組合福岡地方本部
執行委員長 泉野時彦

全国一般福岡支部福岡大和倉庫分会
分会長 磯好美